

# 全国日青

<http://www.zennissei.com>



vol.  
**163**

発行  
事務局 〒454-0971  
愛知県名古屋市中川区富田町  
千音寺3990 円乗寺内  
TEL.090-4329-1397  
FAX 052-431-6334



去る五月二十七、二十八日に開催されました「第四十七回全国日蓮宗青年僧北陸金澤結集」の無事円成を先ずもってご報告し、張田珠潮総務局長をはじめご来賓の各聖、メインテーマ「同心」北陸金澤結集テーマ「掌と心を合わせよう」に共感してくださった二百三十名を超える全国遠近よりの参加青年僧各聖に対し、心より感謝と御礼を申し上げます。

## 同心

てのひら

## 「掌と心を合わせよう」

### 第四十七回全国日蓮宗青年僧北陸金澤結集開催御礼

大会実行委員長  
石川一部日青会会長

荒 清 寛 悟

第一日目は結団式において、総務局長ほか、ご来賓より激励の言葉をお言葉を頂戴し、いざ行脚へ。玄題旗を以て「立正安国・世界平和」と染め抜いた旗を先頭に進む行脚隊は、金沢城と名勝「兼六園」の間、通称「お堀通り」をお題目の声高らかに地元の人や全国からの観光客の注目を浴びながら進路を東へ。目的地は金澤日蓮聖人銅像様と檀信徒が待つ卯辰山（標高一四〇メートル）山頂。青年僧総勢二百余名による唱題行脚。「青年僧のお題目の声はまるで雄叫びのよう。行脚の到着はまだのはずなのに風に乗って山肌を駆け上がってくる。その感動で涙があふれた。」と語るのには、日蓮聖人銅像様前で出迎えた檀信徒の女性。

その後、会場をホテルに移し懇親会へ。冒頭に全日青伝道委員会が主体となつて制作したDVDを放映し、全国一斉行脚における各単位日青会の活動を紹介したドキュメンタリー映像を見て雰囲気は最高潮に。青年僧の熱い夜は更けてゆきました。二日目は、代表者会議と総会。閉会式が行われ二日間にあたる結集の全日程を終了し大会を無事円成するに至りました。これも偏に外護の激励を下された地元北陸の御寺院、全日青OBの各聖、今結集に参加の全国青年僧、皆々様のお陰と厚く御礼申し上げます。そしてこの北陸金澤結集が「立正安国 お題目結縁運動」に繋がることを願ってやみません。最後に、今結集開催の依頼に対し全会一致の賛同をくれた石川一部日青会の同志、そして前日の準備から当日の運営までお手伝いくださった北陸各日青会の皆様へ心より甚深い感謝を申し上げます。

# 行学道場報告

行学道場担当委員長 犬飼 盛勝

## 経済学を身につける意義

社会を観察し分析する能力の育成が必要である。経済学で金儲けはできないが、経済法則に反するビジネスは失敗する。感情をコントロールすることに、身近な社会現象を客観視することができる。善悪論は思考を停止させるので自分の頭で考え、判断力がある自立した人間を育てなければならぬ。このことは『学問のすゝめ』に書いてあり、学問をしなければ支配されてしまう危険がある。

## 経済学的なものの方の要点

インセンティブ（人の意欲を引き出すために、外部から与える刺激）

日時 平成21年1月29日 13時より16時

会場 日蓮宗宗務院

講題 「21世紀のお寺像を考える」



講師

中島 隆信 氏

内閣府大臣官房統計  
委員会担当室長

慶應義塾大学客員  
教授(商学博士)

の所在を探ることで人が行動する上で影響を与えている要因を分析し、回避することができる。そして「なぜ？」という疑問を持つことが重要である。宗教にかかわる「なぜ？」は次の通りである。「なぜ宗教が存在するのか」「なぜ葬式をするのか」「なぜ初詣に行くのか」「なぜ住職は世襲なのか」「なぜ宗教法人は非課税なのか」等。

損得の発生について考えると、お互いが得にならなければ長続きはしない。そして資源配分が効率的になることは無駄を排除し、限りある資源を節約することである。

競争によって市場の規律を保つことは選択の自由が担保されていることである。また、相互依存関係も重要であり、需要と供給、一般均衡的発想をするためには、まわりをよく見、世の中を広く見ることが必要である。

**世の中に不必要なものはない**

社会におけるダーウニズム（ダーウインの進化論）として、環境が変わるから進化するし、必要な物は省かれて行く。これが経済的過程であり、新たな需要のスタートである。

政府介入の是非は無駄を作り出すリスクがある。そして消費者育成のための教育が必要であり、賢い消費者が健全な事業者をつくる。

## 市場の特性

コストベネフィットとは費用便益リスク削減対策に必要なコストとその結果削減されたリスクの価値（ベネフィット）のことであり、実用性のコストベネフィットには、技術進歩による陳腐化のリスクがあるが、市場拡大のメリットがある。精神性のコストベネフィットには一般性の欠如による閉鎖性（特定の人が対象となるため）があるが、安定的な市場の確保ができる。そこで折衷案（実用性と精神性の割合）でどこで線を引くかが重要となる。

## お寺は営利事業か？

実用性は営利であり、株式会社では利益配分が必要。精神性は非営利であり、顧客との信頼関係のウェイトが大きい。お寺は「人助け」であり、救済は営利ではないはずである。ペット供養の扱いの問題もあり、料金を提示せず、非営利であるべきではないだろうか。

## 21世紀のお寺像

ミッションの明確化として実用性と精神性のウエイト付けが重要であり、現代人のニーズ発見が必要である。

。「直す」のではなく「救う」、「共存させる」ことが大事であり、そうなるためには、心を柔軟にするための鍛錬が必要である。またモラルの基本を教えることも必要であり、自分以外の、あるいは人間以外の偉大な存在を知ることの意義はすべての宗教に通じることである。文句なしにそういった存在がいる事を信じるのが「信仰」である。経済学では「見えざる神の手に導かれて」（経済学者アダム・スミスが提唱）が人々の欲求が社会全体の幸せにつながるべくと宗教的な部分にまで到達している。

謙虚さはすべてのモラルにつながり、謙虚さは寛容になる、それが仏教ではないのでしょうか。宗教教育は今の日本社会に必要でありましょう。

—講演資料より—

今回の行学道場は私たち僧侶が、今、社会から何を求められているのか。何をすべきなのかを経済学からの視点で講演頂きました。

人はとかく上から目線になりがちです。「質直意柔軟」にして謙虚さが必要であり、同じ目線で見て考えたいという想いと行動、そして私達人一人が考え、協力しあうことが大切だと感じました。

法務ご多忙の中、八十二名の多数の参加を頂き誠にありがとうございました。

# お題目結縁全国一斉行脚

## —立正安国の実現を目指して—

伝道担当委員長 伊東 政浩

宗門運動の「立正安国・お題目結縁運動」が実動して三年目、そして「立正安国論」奏進七五〇年を期し、「お題目結縁全国一斉行脚 —立正安国の実現を目指して—」を全国各地で、立教開宗会の聖日、四月二十八日を中心として一斉に唱題行脚を展開した。

今年一月二十九日の全日青代表者会議にて承認されたこの布教活動で



あるが、その呼びかけに応えた各単位日青会は、全日青加盟五十三日青会中、五十一日青会、実動率は約九十五パーセント以上にも及んだ。

しかしそのとらえ方は各単位日青会、地域性、管区事情によって異なり、そして青年僧一人一人の思いも様々であったようである。会員のみ

の行脚から、檀信徒を交えての行脚、また全日青が企画編集し、宗務院伝道部発行の教箋「今、あなたが必要です。」を各日青に送付したわけであるが、行脚中に一人でも多くの

方々に理解を深めようと未信徒、檀信徒に配布した組織、各寺院に置いて活用した組織と、稀に活用しない組織があったのも事実であり、また

自分達が配った教箋に責任を持つと組織や自坊の連絡先を入れられる様、空欄を作ったわけであるが、この意味を理解し、組織名、あるいは

自坊の連絡先を記載されたか否か、現時点では未確認である。



今回、各地で展開された行脚の記

録写真、また各単位日青会の活動画像を提供していただき、全日青伝道委員会にて編集し、DVD化を図った。そして日蓮宗新聞七月一日お盆号では特集を組んでいた自分たちであるが、全体から見た自分たちの活動や思いを垣間見るよい機会となったのではないだろうか。

三離れ現象（寺離れ・墓離れ・葬式離れ）が宗門でも危惧されている昨今、「今こそ我々青年僧が立正安国の実現を目指し、自ら率先して行動し、お題目の輪を引上げていかなければ—」との思いで全日青から発信したこの行脚計画であったが、この

一斉行脚は単なる記念事業に止めてはならない。檀家制度に胡坐をかいている時代はもう終わる。我々は常に自分たちの行動を振り返り反省をし、自覚をもって時代を見据えて工夫をしながら行動すること、周りを見ようとせず、一人の青年僧の考え、一つの青年会の考えで凝り固まらずに、全国の青年会との情報交流を円滑にして互いに刺激し合うことで高め合い、時には皆で協力し合い、異体同心の意をもって、これからの布教活動に真剣に取り組んでいかなければならない。



## 大きな一歩

## 沖繩慰霊行脚 父の思いを胸に

荒井 秀夫



一年前の六月二十三日、父は他界しました。命に限りがあるのは分かっています。しかし父

皆様に父が倒れるまでの経緯を聞かせて頂きました。最後まで周りの人に気を配り、意気揚々と行脚をしてきたそうです。行脚の後はみんなで大好きなお酒を飲むつもりだったと聞きました。一緒に飲んでくれる方がたくさん居て、父も楽しかったことでしょう！

そして平和記念公園まであと少しというところで倒れてしまったそうです。幸福にもお題目を唱えながら倒れて沢山の方がそばにいて手を尽くして頂いたこと、とても感謝しております。

の命の灯がこんなに早く消えてしまふとは、正直思っています。私はその日仕事中で、電話で知らせを聞きました。突然の事で、初めは何があったのか分かりませんでした。倒れたのが沖繩という事で、私と姉はすぐに駆けつけることができません。母が向かいました。遺体を現地火葬にするか、そのまま連れて帰るか、と問われた私は、大変ではあるが会いたかったので、連れてきてほしいと告げました。

帰ってきた父の顔を見ると、まるで笑っているようでした。あまりにも安らかな顔で、なんだか安心させました。何かをやり尽くしたかの如く、あの父の顔は一生忘れることができませぬ。

生前の父は自分本位の人でした。ただ最後の何年かは人が変わったように、何かに打ち込んでいる様に見えました。父が、「沖繩慰霊行脚」に参加したのも、感じるものがあったからだと思います。葬儀の時、行脚に参加されていた

話を聞いて感じ取れた事は、父は自分で納得して逝ったんだと。残されたものは辛い事ですが、やはりここぞというときには必ずそばにいて、私たちの心に生きていて父の言葉を一つ一つ思い出し奮立たせています。

そして私は、翌年の行脚に参加し、父が歩けなかった道のりを歩き、一緒に最後まで歩ききりたいと考えるようになりました。そして今年、周りの方々のお力添えもあり、私一人ではありましたが参加させて頂けることになりました。当日は天候もよく行脚するには暑すぎないでした。青年会の方と檀家さん達で一〇〇人近い人数で行脚する様子は圧巻でした。揃った太鼓の音、お題目：聞

いていて心地よささを感じました。私もうちわ太鼓を手には、慰霊と父の為に「南無妙法蓮華經」と唱え、ひめゆりの塔を経て記念公園まで、約十キロの道のりを父とともに行脚しました。

途中、父が運ばれた病院の横を通ったときは、言葉が出ませんでした。見えなくなるまで振り返っては幾度も見ていたと思います。

行脚最後の休憩場所にて、昨年父が倒れなくなった話をして頂き、倒れた場所でも全員立ち止まってご回向して頂けることとなりました。お塔婆とお花まで用意して頂きとても感概深かったです。倒れた場所に行くまでは何も考えられず、ただただ無心にお題目を唱える事しか出来ませんでした。その場所に着いた時まず感じた事は、父がどんな思いでここまで来て何を考えていたのか。最後に見た空はどんなに素晴らしいものであったか。

そしてその場で唱えたお題目は考えられないほど力強く震えるもので、しばらくその地から目が離せませんでした。

そして、私は父と共に平和記念公園、黎明之塔まで歩きたい事が出来ました。一年掛かりで父の想いが途切れた線であったものが繋がったと感無量でした。

人の心というもののあたたかさを感じ、父は確実にここに居て、一杯生きている存在していたんだと実感しました。人に忘れられるのは悲しいです。

私以外の方々も、一人一人思いは違えど、平和ということ念頭に、行脚されていたことと思います。私は、

沖繩の「慰霊の日」の意味をあまりよく知りませんでした。この行脚に参加することで知る機会、考える機会を与えて頂きました。

歴史は変えることができないからこそ、学んで同じ過ちを繰り返さないようにしなければならぬと考えるさせられました。

そして行脚終了後、父の亡骸を預かって頂いた法華経寺様にて、慰霊の法要とともに、父の一周忌の法要をして頂きました。父にここまでして頂いて御礼のしようもありません。何らかの意図を持って天に逝った父、その意図が感じられるよう、風のように過ぎる時間を日々精進して生きていきたいと思えます。

今回の「慰霊行脚」に参加出来たことは、家族にとっても私自身にとっても、大きな一歩だと思っています。

皆様のあたたかいお言葉にすく励まされました。父の事で大変ご迷惑をお掛け致しましたことをお許し下さい。ありがとうございました。



合掌 荒井秀夫

# 鎌倉唱題行脚報告

“いのちの行脚”

神奈川二部日青会会長 大埜 慈誠



『立正安国論奏進七五〇年』という千載一遇の聖時に、その聖地鎌倉の青年会々員として微力ながらも携われることの法悦に奮い立ったものの、「青年会は適当に鎌倉の中を歩いていればいい」との耳を疑うような一言を拝して鎌倉唱題行脚計画は始まった。

宗祖最初転法輪の聖地鎌倉。辻々

に宗祖の足跡が息づき、弘法の最前線であるはずのこの街も、今年年間一千数百万人を数える観光客に本宗の影は薄い。その憂慮すべき鎌倉の現況に本宗僧侶としての使命を慮り、宗祖の精神を轟かせ、ここ鎌倉こそ意義ある唱題行脚決行に思い至るに時間はかからなかった。

「適当に歩いていればいい」の一言もあって、それまで御報恩の思い深くもその形各々だった管内青年会々員も異体同心の尽力を集結、また全日青光岡会長・伊東副会長に思いの丈を届けて全日青各聖のご参集を屈請、頂いた熱いお言葉に意を強くし、かくして鎌倉唱題行脚“いのちの行脚”は決行の時を迎えられた。当日全国より八十有余名の青年僧が本山本覚寺に集結、特に立正安国論にゆかりの深い三ヶ寺を中心にコースを設定。

① 奏進に深く関わった宿屋光則公屋敷跡で日朗上人幽閉の土牢が残る光則寺

② 立正安国論を呈上した北条時頼公墓所がある明月院

③ 立正安国論起草の法窟とされる安国論寺

途中本宗寺院はもとより、臨濟宗総本山建長寺、浄土宗大本山光明寺など名だたる他宗寺院の前でも安国論を拝読。北条時頼公の墓前にて唱題。八幡大菩薩が勧請される鶴岡八幡宮には三コースより集結し、舞殿前にて広宣流布誓願法要を厳修。その後、宗祖辻説法跡にて一読し、宗門法要が奉行される比企谷妙本寺祖師堂前にて宗門全教師の異体同心勇猛精進を祈念し、本覚寺に帰着。

この日、鎌倉中に轟いた天鼓唱題は、必ずや宗祖の鼓動の如く未信徒への下種結縁になったはずだ。

他宗を強く排斥された宗祖の時代と大きく異なり、仏教離れ・寺離れ著しい昨今にあつては宗派間の垣根はないに等しい。しかし近年我々の止まるところを知らない欲望から環境汚染による地球規模の危機に瀕し、他方自殺者が年間三万二千人を超え、世間を震撼とさせる事件が頻発し、老いも若きも明るい先行きを見出せない現世情は、宗祖が『立正安国論』を著されたその時代にも増して事は深刻だ。『立正安国論』の心を惟るに今、我々日蓮宗僧侶に課せられた使命は重く、今般宗祖の足跡を辿った『奏進七五〇鎌倉唱題行脚“いのちの行脚”』を更なる契機に、宗祖の御遺徳を偲ぶとともに、数多の御法難を法悦と甘受され法華経に生きられた宗祖の死身弘法を心に期



し、その使命に邁進したい。

最後に全国より馳せ参じて下さった全日青各聖、お陰様にて大聖人の御魂と呼応できた文字通り“いのちの行脚”となりました。感慨無量、ありがとうございます。

また関連部署の意向が紆余曲折し、心ならずも揺れる背を強く押し下さった先輩諸聖・寺庭婦人の方々。快く行脚隊を受け入れて下さった各御寺院。そして終始寸暇を惜しんで勤しんでくれた我が神奈川二部青年会々員各聖。女性ならではの細かい作業や行脚の同行カメラマンを引き受けて下さった我が会員の寺庭婦人。異体同心なれば万事を成じ……書中をお借りして心より厚く御礼申し上げます。

# キラリと光る青年僧

石川能登日青会 藤田文章（三十歳）



なに早く就かせて頂くとは思って  
おりませんでした。

自分の人生のプランとしては、四十歳から五十歳になるまでに色々なお寺で下積みや勉強をさせて頂いた上で、一ヶ寺の住職として勤めさせて頂ければと思っておりました。

私は、能登の石川県羽咋市釜屋町にございます、六度山妙顕寺の住職を勤めさせて頂いております藤田文章と申します。

つい二年前までは、実家の大阪府大阪市中央区にございます玉作山薬王寺住職・師父藤田文明のもとで隣のお寺の仕事を手伝っておりましたが、まさか私が一ヶ寺の住職にこん

持ち」と「信仰の深さ」が現われていたからです。

お寺は、まだまだ三十年程の短い歴史しか有りませんが、その間は様々な事がありました。御開山のお上人は、お寺を一から建立に努めるも完成する前に約二年の住職を勤め御遷化され、お寺の完成後は約三十年の間、福井県におられるお上人に代務住職をして頂きながら檀信徒一同が協力をし、お寺に寝泊まりしながらお寺を護つてこられました。

私は、はつきり申しますと浅学非才ですので妙顕寺に限らず、どこのお寺でも住職を勤めるにはあまりにも荷が重い上に、檀信徒の期待に応じることが出来ないと思っておりました。ですが、そんな迷っている私に師父は「どのお上人方にしても最初から住職を完璧に勤めて檀信徒から認めて頂ける人はいない、だけど檀信徒の皆様のあるだけの信仰の深さがお寺にとって一番大切だよ。」と背中を押してくれました。心の中心にモヤモヤしていた物が吹っ切れました。

私には、僧侶として足りないところは沢山ありますが師父が健在

のうちに色々な事を学んで少しでも宗門の力に、また檀信徒の皆様のお期待に応えられるように頑張ろうと思いい妙顕寺の住職として勤めさせて頂く決意を致しました。

しかしお葬儀、彼岸、施餓鬼など、お勤めの仕方が大阪とは異なり、風習や方言の違いもあり、大きな壁にぶつかる事が多々ありました。ですがそのような中、地元宗務所長様が始め管内の諸先輩のお上人方から色々な助言や教えを頂き、また檀信徒も心配をしてお寺のお参りの合間に私の身の回りの世話をして下さいました。そのお陰で挫折することなく勤める事ができています。

私は能登に来て、沢山の方々の御支援御協力を頂いて本当に恵まれた環境で活動させて頂いているのだと思いました。今後は、この能登の風習にもっと慣れ親しみ、妙顕寺もまだまだ他のお寺と違って土台の出来ていないお寺ですので、しっかりと土台作りを行っていき、私も一心に仏祖の給仕をして、行と学の二道に励みながら檀信徒の皆様と一緒に御題目修行に勤めて参りたいと思います。

活動支援金拝受

平成二十年度

平成二十年十月一日〜  
平成二十一年五月二十七日

東京	要法寺	小山内功静	石川	妙國寺	尾張	道心寺	蟹江	一恒
東京	妙安寺	吉田	文堯	石川	玉寿寺	尾張	岩崎	智慎
東京	長照寺	石井	英雄	石川	妙相寺	尾張	大坪	一雄
神奈川	大円寺	佐藤	功岳	大阪	如在寺	尾張	服部	智謙
神奈川	常照寺	伊東	隆司	大阪	妙浄寺	尾張	荒清	寛悟
神奈川	常眞寺	安藤	海潤	兵庫	妙典寺	尾張	藤井	昭光
神奈川	泉福寺	丸山	邦雄	広島	妙國寺	尾張	河崎	俊宏
千葉	本住寺	野島	滋秀	福岡	本佛寺	尾張	中川	法政
千葉	妙蔵寺内	高鍋	隆盛	熊本	栄立寺内	尾張	藪木	恵照
埼玉	本心寺	星	光諭	長崎	常在寺	尾張	濱田	壽教
茨城	妙光寺	遠山	智隆	岩手	智恩寺	尾張	村井	信照
名古屋	了義院	山口	景遠	北海道	光明寺	尾張	合川	天心
名古屋	本覚寺	伊藤	守温	北海道	妙心寺	尾張	西山	昌秀
名古屋	照遠寺	長谷川	鳳道	北海道	七面結社	尾張	田中	文教
名古屋	真柳寺	吉田	鳳泉	長谷川法律事務所		尾張	若松	宏泉
名古屋	浄蓮寺	藤	浩一			尾張	徳永	見幸
名古屋	浄昇寺	山川	潮暎	石川県第一部日青会		尾張		
名古屋	妙行寺	安藤	信行	岩手日青会		尾張		
名古屋	本遠寺	伊藤	友道			尾張		
名古屋	栄立寺	光岡	潮遠			尾張		
名古屋	妙親寺	服部	恵照			尾張		
名古屋	本源院	玉森	潮慎			尾張		
名古屋	最経寺	深沢	友遠			尾張		

平成二十一年度

平成二十一年五月二十八日〜  
平成二十一年七月二十三日

東京	瑞輪寺	井上	瑞雄	本山	尾張	妙泰寺	松永	寿遠
東京	法性寺	鈴木	良敬	本山	新潟	妙宣寺	関	道雄
東京	妙源寺	小林	順光	石川	東城寺	齊藤	憲一	
東京	宗柏寺	伊藤	順正	大本山京都	妙典寺	能登	海正	
神奈川	妙本寺	早水	日秀	京都	妙眞寺	南條	孝仁	
神奈川	妙光寺	平塚	幸光	大阪	十如寺内	福澤	正俊	
神奈川	浄蓮寺	伊東	正光	広島	常國寺	濱田	壽教	
神奈川	実相寺	石井	耀心	愛媛	大法寺	関谷	泰教	
神奈川	妙行寺	杉山	海秀	高知	妙國寺	渡邊	泰秀	
千葉	妙光寺	富永	観瑞	熊本	長延寺	原	恵晋	
千葉	妙蓮寺	上村	貞雄	山形	孝勝寺	谷川	海雅	
千葉	法蓮寺	渡辺	照敏	北海道	光昭寺	神田	智玄	
埼玉	本心寺	星	光諭	北海道	光明寺	田中	文教	
茨城	久昌寺	神部	鍊紳	北海道	妙法寺	釋	英照	
山梨	大蓮寺	望月	義仁	宮城県日青会				
静岡	佛現寺	板垣	圭祐					
静岡	妙祥寺	遠藤	文祥					
名古屋	本覚寺	伊藤	守温					
名古屋	円頓寺	塩田	宝裕					
名古屋	休玄寺	近藤	潮昭					
名古屋	浄昇寺	山川	潮暎					

ご支援・ご協力を頂いた方のご芳名

(順不同・敬称略)

本会活動に多大なるご支援を賜り、心より御礼を申し上げます。充実した活動の為、活用させて頂きます。ご協力ありがとうございました。

# ○ 全国日蓮宗青年会 平成20年度財務決算報告書 ○

(平成20年5月23日～平成21年5月27日)

## 収入の部

(単位 円)

項 目	20年度予算	決 算	備 考
単位日青会分担金	1,700,000	1,785,000	
宗務院助成金	800,000	800,000	
宗務院追加助成金	0	300,000	宗門運動関連助成金
機関誌広告料	250,000	420,000	
活動助成金	1,000,000	2,683,000	支援者芳名機関誌に掲載
前年度繰越金	1,186,063	1,186,063	
雑 収 入	63,937	65,230	預金利子・宗報原稿料
収 入 合 計	5,000,000	7,239,293	

## 支出の部

(単位 円)

項 目	20年度予算	決 算	備 考
事 業 費	820,000	533,500	各委員会事業費・機関誌発行費等
会 議 費	560,000	630,540	執行部会議・代表者会議諸経費等
事務通信費	428,000	408,624	郵送費・事務費・事務局電話代等
出張費	1,370,000	1,379,070	各ブロック会議・執行部会議交通費等
助 成 金	1,300,000	1,300,000	各ブロック助成金・結集助成金
全日仏青負担金	100,000	100,000	
全日仏青記念事業費	0	453,900	記念事業負担金、東大寺法要参加費等
災害救援対策基金	200,000	200,000	別会計 災害救援対策基金へ
慶 弔 費	50,000	44,250	通夜参列、供花
予 備 費	172,000	0	
支 出 合 計	5,000,000	5,049,884	

総収入 7,239,293円 - 総支出 5,049,884円 = 次年度繰越金 2,189,409円

## 別途積立金 3,220,471円

### 別会計

#### 災害救援対策基金

前年度災害救援対策基金	463,630
平成20年度積立	200,000
現在基金残高	663,630

以上の通り報告いたします

### ◎現在基金残高 663,630円

全国日蓮宗青年会 会 長 光岡 潮慶  
財 務 近藤 高弘

#### 監査報告書

上記の平成20年度決算報告書に基づき関係帳簿、領収書、預金通帳等の精査及び予算の執行に関し監査の結果、適正でありかつ厳正に執行されていると認めここに報告します。平成21年5月28日

全国日蓮宗青年会 監 査 福澤 正俊  
監 査 植松 健郎



# 全ては お客様のために

取扱品目

文字情報処理印刷  
書籍・報告書・名簿・その他頁物印刷全般  
一般商業印刷  
会社案内・パンフレット・名刺・封筒・帳票類など  
インターネット関連  
ホームページ作成・管理など  
マルチメディア  
ビデオ撮影・編集・パッケージ化など

株式会社プリカは「安心」・「安全」をお届けしてまいります。

安心とは、お客様に心からご満足いただける商品づくり。  
安全とは、確実な商品をお届けするためのシステム。

<http://www.purika.jp/>



当社は、JIS Q 15001:2006準拠のプライバシーマーク付与認定を取得しました。  
プライバシーマーク制度は、「JIS Q 15001 個人情報保護マネジメントシステム 要求事項」に適合して、個人情報について適切な保護措置を講ずる体制を整備している事業者等を認定し、プライバシーマークの使用を認める制度です。



メディア・トータルプランナー  
株式会社

**プリカ**

〒141-0031 東京都品川区西五反田8-4-15オカジマビル6F TEL.03-5496-0961(代) FAX.03-5496-1670

総本山身延山久遠寺御用達

日蓮宗大荒行堂御用達

数珠製造・仏像仏具・各種記念品土産一式

## 若松屋数珠仏具店

山梨県南巨摩郡身延町身延3700 TEL 0556-62-0145 FAX 0556-62-0191  
振替/00450-5-1624 取引銀行/山梨中央銀行身延支店

Eメール/wakamatu@eps1.comlink.ne.jp

ホームページのURL/http://www.eps1.comlink.ne.jp/~wakamatu/

身延山久遠寺御用達

日蓮宗大荒行堂御用達

甲州印伝・珠数・水晶・各種記念品

身延山 **紫雲堂**

珠数・腕輪修理承ります

〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延 3648 電話 0556-62-0102 F A X 0556-62-3383

# 松司軒仏具店

〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延 3 6 5 9

TEL/FAX 兼用 0 5 5 6 - 6 2 - 0 2 1 0

アイテム数 1 2 0 0 個の本宗最大の珠数・仏具 Home Page

<http://www.minobusan.net>

メール [shojiken@abelia.ocn.ne.jp](mailto:shojiken@abelia.ocn.ne.jp)

**数珠修理承ります**

※古材利用の珠数製作致します

※今期行堂でお褒めに預かりました 松司軒の木剣珠数を是非一度

お試し下さい (適度なしなやかさを保ちながらもよじれがありません。)

**※お勧め品・・・手にフィットする本梅七寸ゴム仕立茶房珠数**

## 身延山久遠寺・日蓮宗大荒行堂 御用達

珠数・仏具・印伝・記念品・土産品一式

信仰のお手伝いの店

# 浪花屋珠数仏具店

〒409-2524 山梨県身延町日朝通り

電話 0556 (62) 0200

FAX 0556 (62) 0771

日蓮宗指定旅行会社  
TOPTOUR **トップツアー株式会社**  
団参旅行センター

東京 東京都目黒区東山3-8-1  
TEL 03(5704)3493

京都 京都市下京区寺町通松原植松町733  
TEL 075(361)5351

名古屋 名古屋市中区丸の内2-18-25  
TEL 052(232)1091



団体参拝・ご出張・ご家族旅行などのご用命は

日本旅行 名古屋支店

株式会社日本旅行名古屋支店  
愛知県名古屋市中区栄2丁目11番30号  
セントラルビル 1F 〒460-0008  
TEL: 052-232-6710 Fax: 052-232-6711  
担当: 長谷川・樋口  
※土日祝日休業

1枚の切符から宇宙旅行まで 株式会社 **JTB中部**

ご旅行のご用命は・・・

**JTB中部 法人営業名古屋支店** まで

名古屋市中区丸の内 1-17-19 キリックス丸の内ビル7階

TEL: 052-211-6702 FAX: 052-211-6412

担当: 中野 太郎



大陸旅遊

日蓮宗指定業者 国土交通大臣登録旅行業第1399号/日本旅行業協会正会員  
株式会社 大陸旅遊 TEL 03-3376-2511  
FAX 03-3376-5280

Tairiku Tours & Leisure co., LTD

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 5-5-6 第二ダイヤモンドビル2階  
<http://www.tairikyoryou.co.jp> mail: [tlc@tairikyoryou.co.jp](mailto:tlc@tairikyoryou.co.jp)



世界 80 カ国 4200 軒以上 世界最大級のホテルチェーン

<http://www.bestwestern.co.jp/>



ベストウェスタンホテルニューシティ弘前

## 上質の新基準

単一ブランドとしては加盟ホテル軒数が最も多い、世界最大級のホテルチェーン、ベストウェスタン。

統一されたブランドスタンダードによって、世界中のどこを利用しても安心と

信頼が約束され、世界中の旅行者から愛されています。

客室を選ぶ、食事を選ぶ、ホテルライフを楽しむ…楽しみ方は「貴方次第」。自分らしさの旅をご提案します。



ベストウェスタン  
プレミアホテル長崎



JR 弘前駅徒歩1分

ベストウェスタンホテルニューシティ弘前



ベストウェスタンホテル  
高山



1 ランク上のホスピタリティ



弘前の夜景を一望できる宴会場



弘前の素材にこだわった料理の数々

### お問い合わせ

ベストウェスタンホテルニューシティ弘前  
青森県弘前市大町 1-1-2 TEL:0172-37-9551

ベストウェスタンホテル高山  
岐阜県高山市花里町 6 丁目 6 番地 TEL:0577-37-2000

ベストウェスタンプレミアホテル長崎  
長崎県長崎市宝町 2-26 TEL:095-820-1801



株式会社ランドナー・ジャパン  
愛知県名古屋市中区新栄 2-1-9 雲竜ビル西館 3F

TEL:(052)261-8445 ホームページ  
FAX:(052)241-1915 <http://www.landowner.jp/>

# 全国日青加盟单位日青会 会長名簿

石川県能登日青会	石川県第一部日青会	富山県日青会	新潟県北部日青会	新潟県東部日青会	伊豆国日青会	栃木県日青会	茨城県日青会	埼玉県日青会	千葉県北部日青会	千葉県南部日青会	千葉県西部日青会	千葉県東部日青会	神奈川県第一部日青会	神奈川県第二部日青会	神奈川県第三部日青会	東京都南部日青会	東京都西部日青会	東京都東部日青会	青森立正青年会	秋田県日青会	岩手県日青会	山形県日青会	宮城県日青会	福島県日青会	北海道北部日青会	北海道南部日青会	北海道東部日青会	
法花堂正全	荒清	竹内	休	宮澤	土屋	篠原	鈴木	坂爪	永野	鶴澤	石野	岩田	鈴木	大埜	荒川	石井	吉田	春日	飛鳥	左京	田口	花谷	今野	大越	釋	山本	木村	林
寛悟	瑞隆	会	順正	貫諦	正文	守成	快淳	元靖	貫陽	晴朗	親静	宣康	慈誠	泰崇	隆進	一修	智昭	玄龍	寛生	昌芳	龍悦	義峰	一優	英義	智雄	雅央	永淳	勝見
北米日青会	ハワイ日青会	高崎	工藤	川崎	矢吹	久保田	原	中村	坂口	坂本	渡部	平野	小平	休	松森	水野	高川	萬田	山崎	戸田	藤原	國本	青木	秋山	渡邊	林	阪口	明徳
五十嵐	哲堂	海悟	泰元	孝昌	智尊	惠亮	公彦	慈紹	圭祥	公友	信行	晋慈	会	孝雄	弘関	豊行	信力	俊裕	秀明	充静	智真	三明	善生	英晃	教仁	映徳	明徳	

## 北陸金澤結集表賀一覽

(順不同・敬称略)

北陸教区長  
 石川県第二部宗務所長  
 石川県第一部宗務所長  
 富山県宗務所長  
 新潟県東部宗務所長  
 新潟県西部宗務所長  
 本山海長寺  
 本宗議員  
 宗議員  
 東京柏寺  
 陽運寺  
 玄静院  
 圓乘寺  
 本源院  
 浄蓮寺  
 長野知愛

法花堂見英  
 清周寛  
 荒木清  
 谷文崇  
 池浦泰樹  
 菅野彰  
 野藤一  
 野藤延  
 伊藤正  
 植松健  
 田順晃  
 太倉光  
 小倉雄  
 森潮  
 藤浩一

新 潟 本立寺  
 石 川 本證寺  
 福 井 妙相寺  
 大 阪 妙顯寺  
 福 井 正蓮寺  
 大 阪 普明結社  
 鳥 根 連紹寺  
 新 潟 東部日青会  
 石 川 能登日青会  
 富 山 日青会  
 新 潟 東部日青会  
 新 潟 西部日青会  
 福 井 中部日青会  
 山 梨 日青会

藤 遠 藤 智 智 智  
 田 田 田 昭 昭 昭  
 登 登 登 通 通 通  
 海 海 海 正 正 正  
 河 河 河 宏 宏 宏  
 崎 崎 崎 吉 吉 吉  
 村 村 村 宏 宏 宏  
 奥 奥 奥 秀 秀 秀  
 戸 戸 戸 明 明 明  
 田 田 田 宣 宣 宣  
 米 米 米 雄 雄 雄  
 田 田 田 順 順 順  
 宮 宮 宮 正 正 正

宮城日青会  
 山形日青会  
 岩手日青会  
 青森立正青年会  
 東京西部日青会  
 神奈川第二部日青会  
 千葉東部日青会  
 茨城日青会  
 和歌山日青会  
 兵庫東部日青会  
 岡山立正青年会  
 福岡日青会  
 熊本日青会  
 宮、鹿、沖日青会  
 日蓮宗新聞社  
 金沢銅像護持会  
 全日青会長  
 全日青副会長  
 全日青執行部各委員長

光岡 潮慶  
伊東 政浩

## 第48回

# 全国日蓮宗青年僧 沖繩結集

日時 平成22年6月22日~23日